

出来事ファイル (No.23-8)

■元町商店街誕生150年事業 幕ひらく

元町商店街では7月10日(月) 13時から、まちづくり会館3階の多目的ホールで、齋藤元彦知事、久元喜造市長らを招き、3年間にわたる元町商店街150年事業実行委員会の発会式を開いた。これからの3年間、元町商店街で実施される事業を紹介しておこう。

事業は文化や芸術、音楽をベースに、「過去」「現在」「未来」のテーマで行われるが、各年別に紹介された主な事業は次の通り。

生誕149年目実施事業=150年のシンボルデザインを制作し、買い物袋、エコバッグ、包装紙など制作のほか、9月下旬には「もとまちワインフェスタ」で大人のまち元町をアピール、10月には1週間にわたってクラシックを中心に「元町ミュージックウィーク」を開催するほか、元町150年の歩みを「元町アーカイブ写真展」として、元町の歴史を振り返っていただきます。

生誕150年目実施事業=2024年5月20日に150年記念式典を開催。この記念式典開催までに文化・芸術のまちとして剪画家(とみさわかよの氏)や鳥瞰図絵師・(青山大介氏)などに現在の元町を描いてもらい、商店街に展示してこれまでは異なる目線で来街者に楽しんでもらいます。また商店街の現在の魅力を動画で表現、インバウンド対応を含め



150年事業発会式

て商店街プロモーションビデオを制作します。5月20日前後には1か月程度、150年記念セールとして「誓文払い」(仮称)を実施し、お客様と一緒に元町誕生150年をお祝いするほか、ファッション都市神戸に相応しく、若手事業者が写真による手づくりの「ストリートスナップ・ファッションショー」を開催します。

生誕151年目の実施事業=3年目は「未来」をテーマに、「ストリートスナップ・ファッションショー」の実施やまちゼミの子供版「商学校」など、様々な催しを子供たち対象に開催していきます。そして最後の年度の1月、実行委員会解散式を行い、150年の記念誌を制作します。

□読者プレゼント

観覧ご希望の方は、展覧会名と住所・氏名・年齢・本紙へのひと言を添え、本紙編集部までハガキでお申込み下さい。先着順で2名の方にペア招待券をお送りします。

◎「科学漫画サバイバル」シリーズ 絶体絶命!? キミたちのサバイバル

人喰いワニや巨大ゴリラが待ち構える“ナイトサファリのサバイバル”、飛行機の脱出シューターを使って緊急脱出に挑戦できる”飛行機のサバイバル”など体験してください。



会場:大阪南港ATCホール
会期:7月22日(土)~9月3日(日)
お問合せ:キミたちのサバイバル事務局 ☎06-6615-5556

◎発掘された珠玉の名品 少女たち—夢と希望—そのはざままで 星野画廊コレクションより

明治、大正、昭和……。時代のうねりの中で、いつしか忘れられてしまった実力ある画家たち。星野画廊のコレクションから「少女たち」をテーマに紹介します。



岡本神草(拳の舞妓)1922年頃

会場:京都文化博物館4階・3階展示室
会期:7月15日(土)~9月10日(日)
お問合せ:京都文化博物館 ☎075-222-0888

神戸元町商店街 楽市楽座 情報 8月

◇こうべまちづくり会館ギャラリー(無料) Tel.361-4523

8月 4日(金)~8月 6日(日)
神港学園高等学校鉄道研究部 写真&ジオラマ展
8月24日(木)~8月29日(火)三滴会
8月31日(木)~9月 5日(火)第11回日彩会水彩グループ展

◇元町映画館(有料) Tel.366-2636

7月29日(土)~8月 4日(金)「柳川」
7月29日(土)~8月11日(金)
「新世代香港映画特集 2023」※8/5,6休映
8月 4日(金)「北風だつたり、太陽だつたり」+プレイヤーズ・トーク
8月 5日(土)~8月 6日(日)「シャークネード」全6作一挙上映
8月 5日(土)~8月19日(土)「絶唱浪曲ストーリー」
8月 7日(月)~8月11日(金)「まーごめ180キロ」
8月12日(土)~8月18日(金)「グロリア」
8月12日(土)~8月25日(金)「炎上する君」
8月12日(土)~9月 1日(金)
「ジョン・カサヴェテス リトスベクティブ リブリース」
8月19日(土)~8月25日(金)
「ミャンマー・ダイアリーズ」元町映画館13周年記念ジャズ特集
8月26日(土)~8月27日(日)「夏休みの映画館2023」
8月26日(土)~9月 1日(金)「左利きの女」・「ハズパンス」
【予定は変更になる場合がございます。】

■もとまちハーバーグリーン作戦

7月5日(水)正午12時からの、神戸駅東地域一帯のクリーン作戦は、雨天のため中止となりました。毎月、第1水曜日12時より、地域の企業様有志で実施しております。多くの方々のご参加をお待ちしております。



栄町通まちづくり委員会は、7月14日(金)10時から10時30分まで、栄町通を中心に、ゴミ拾いと不法ビラ撤去、自転車・バイクなどへの不法駐輪警告チラシ取り付け作業など、栄町通クリーン大作戦を実施した。参加者は、(株)KKテクノ 松本美紀、(神戸市都市局景観政策課)小林凜、(こうべまちづくり会館)木原正剛、(佐野運輸)入山隆寛・北島幸宏、(神明倉庫(株))十時実希、(神明ロジスティクス)柴田善尊、(兵庫県信用組合)松本健吾・前田健輔、(広島銀行)曾我部真介、(新光明館(株))中川俊・藤田直之・西村友博・大森貴美子、(佐田野不動産(株))佐田野宏之以上、15名のみなさんでした。毎月第2金曜日午前10時、栄町通6丁目佐田野不動産前集合の上、実施しています。お気軽にご参加ください。



みなと元町 TOWN NEWS

発行:みなと元町タウン協議会 住所:〒650-0022 神戸市中央区元町通3-13-1協和会館内 発行人:奈良山喬一 編集人:岩田照彦 電話・FAX:078-391-0831

JR神戸駅・ハーバーロード周辺まちづくり構想を神戸市に提出 合資会社ゼンクリエイト 根津 昌彦

さる7月11日(火)に6月のタウン協総会にて承認を得た「JR神戸駅・ハーバーロード周辺のまちづくり構想」を神戸市に提案するため、三宮ビル東館を訪問した。当日は、協議会から、奈良山喬一会長、古賀野正幸ハーバー懇会長、ハーバーロード・ワーキングメンバーである片山喜市郎氏と小職が、神戸市は、景観政策課、駅前魅力創造課、道路計画課、都心三宮再整備課の4課長が揃って立ち会い、構想を手渡したのち(写真1)、その場でこれからの取り組みなどについて意見交換を行った。



写真1. 岡本景観政策課長に構想を手渡す奈良山会長

アンケート結果を経た最終の構想で

まちづくり基本方針

- 1.神戸の顔にふさわしい豊かさを感じる景観とにぎわいにあふれた空間への更新促進
- 2.元町商店街・ハーバーロードとJR神戸駅前を結ぶ南北動線の強化
- 3.緑と光にあふれ楽しく歩ける魅力的な歩道空間づくり



図1. まちづくり構想に掲げたまちづくり基本方針

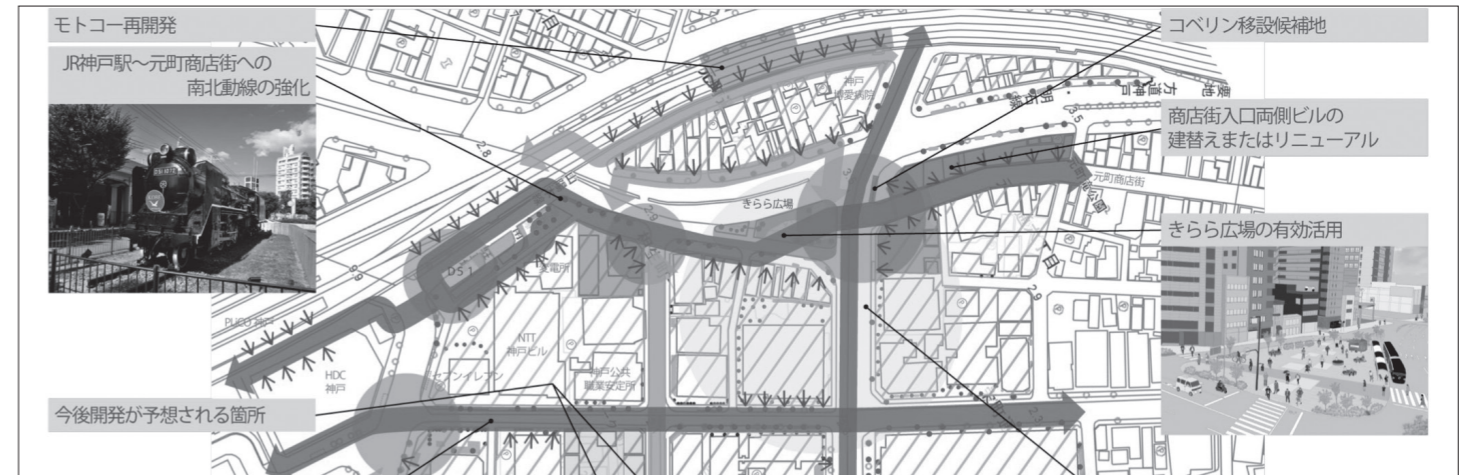


図2. まちづくり構想全体構想図

食べ物やビール・ジュース、緑日遊びと、どのブースもたくさんの大人こどもが順番待ちの列を作り、大いに祭りの雰囲気を楽しんでいた。提供する側もお客さんもみんな笑顔と汗に溢れていたが、こういった光景を目にして、長いコロナトンネルからようやく抜け出したことを実感することができた。

まちづくり構想で有効活用・再整備を掲げているきらら広場では、キッチンカー3台とライブブースを設けたほか(写真2)、南側の許可車以外通行禁止の一方通行道路上にテーブル、椅子、パラソルを設置して、飲食休憩スペースを設けたことで、JR神戸駅側にも大きく夜市が溢れ出し、いい効果をもたらしていた。私たちがまちづくり構想の中でも最重要と考える南北動線の強化に向けた新たな一歩を、踏み出した今年の元町夜市だった。



写真2. きらら広場での元町夜市の賑わい

海という名の本屋が消えた (117)

平野義昌

西村旅館(9)

「金曜」第四十八号(1953[昭和28]年2月2日発行)「金曜雑記」[編輯後記]で五老=増田五良が「最後の編輯」と挨拶。本号を以て増田は編輯・会計、その他事務から離れる。49(昭和24)年1月から多少の遅れはあるものの、毎月増田が編輯同人として「金曜」発行を取り仕切っていた。誌面が余ると役目柄増田が書いた。できるだけ寄稿に対して謝意を示してきたこと、「金曜」諸文章は後に資料価値が増すものが多いのでバックナンバーを注文してほしいこと、機会があれば総目録作成したいことなどを会員読者に伝える。西村貫一が「金曜会」運営と共に「金曜」発行を継続する。変更について詳細は不明だ。西村家に負担をかけていると、1952(昭和27)年に会費徴収を開始、講演会やクラブ活動を積極的に開催する計画だった。註1

新生「金曜」第五巻通巻第四十九号、同年5月11日発行。表紙の絵は山田無門、題字は藤本春男(編輯同人)、扉絵はバーナード・リーチの銅版画。

貫一の「御挨拶」。焼け跡のへちま棚下で集いが始まって7年、「金曜会」は326回を迎える。会則、会長、役員、会費なし。雑誌「金曜」は48号を数え、一流の寄稿家にも無償。会員、同人、購読者に感謝する。

〈本号巻五、第四十九号よりは長らく御厚志に甘えておりましたが、此度より金曜会自体が運営して、ご寄稿なさる方々にも御礼を少しでも差上げる立前で参り度いと存じます。〉

無料配布はできないので購読、買い取りを願う。また今後は残部を保存せず、図書館などに寄贈する方針。

目次。下村海南(1875~1957年、ジャーナリスト、政治家)「神戸はどうなる」。天野芳太郎(1898~1982年、南米で事業、同地文化研究)「アドベ建築による衣食住の改良」。二人共「金曜」に何度も寄稿。池長孟「筆舌あれこれ」。貫一「飛鳥行」は1948(昭和23)年2月「金曜会」の遠出。奈良飛鳥坐(あすかいます)神社の御田植(おんだ)祭―一五穀豊穡と夫婦相合の奇祭―をルポ。森於菟「鷗外作品と父鷗外」。牧野富太郎「東京通信」。〈学問は底の知れざる技芸なり／生き甲斐のありし此世に草木あり／美の世界 花は紅 葉は緑／憂鬱は花を忘れし病気なり／九年経ば百にとどかむ歳となり／百は速き 九年の路は雲霞〉。

他に会員通信や消息、「金曜会」の催し、カメラクラブ、俳句、短歌、詩の会など紹介。〈購読御願い 一部五〇円。御希望の部数をお知らせ下さい。これまでのように月刊を続けるのは、ここしばらくは困難と思われませんが、早く月刊で出せるように、購読を御協力いただきたく存じます。〉

於菟の文章は独逸学協会中学二年生時代(現在の獨協中学・高等学校)の思い出。教科書に鷗外随筆「大家(たいか)」が掲載されていた。青年ハイネが文豪ゲーテを訪問した時の文豪の態度を批判したもの。国文のS先生が鷗外を医学博士でえらい文学者と称賛。先生は於菟を鷗外子息と知らなかった。「諸君は医者になるのだから文学における教養もこの大先輩を目標とすべき」と。於菟はクラスで最年少、体格小さく目立たぬ存在だったが、「この時だけは数名の同輩が私の方をふりむき、ウィンクみたいなことをするのもいた」。帰宅して鷗外に教科書を見せた。

〈……父は知らん顔で二、三行音読して、さて眉の間に縦のしわをよせ「だれが書いたのか、へたな文章だなあ」といった。教科書の編さん者が著者にことわらず且つあまり得意でない所を転載するのが不愉快でもあり、子供に対しても少し照れくさかったのかも知れない。〉

同級生の「親切なおせっかい」でS先生に「文豪のせがれ」と知られてしまう。著作権などまだ曖昧な時代だった。鷗外死後、出版、上演、上映、放送など「懇篤な挨拶を以て承認を求められる」。於菟は台湾赴任中(1936~47年)中学教科書編纂委員を務めたが、鷗外の文章は掲載されていなかった。戦後帰国すると教科書・参考書への掲載許諾が「著しく多くなった」。すべて承諾するけれども、問題がある。かなづかいのこと。

〈父の仮名遣いについての主張からいえば新かなづかいは一切おことわりせねばならぬ。しかしすでに組んでしまってから校正刷をよこして許可を求め、組み直しては莫大の損失であるから平に御容赦と拝み倒して来るのもあり、或は文部省の方針で文語体以外は旧カナまかりならぬと政府をかさにきて高びしゃにきめつけるのもある。それならおことわりといえぼそんな狭い量見で、新生日本の青少年の眼から鷗外文学を締め出すとは如何と聞き直る。(中略)つまり私の眼のとどこぬ所ではどう扱われようとやむをえないのだ。〉

鷗外作品採用ベストスリーは「山椒大夫」「高瀬舟」「安井夫人」ということだ。

本号に川崎芳熊の名が見えない。川崎は元川崎重工業専務、戦後公職追放となっていた。へちまクラブ、「金曜」に参加。原稿を集め、自らも寄稿し、時には表紙絵も担当した。51(昭和26)年オリエンタルホテル社長に就任し、川崎重工業にも復帰していた。ところが、52(昭和27)年12月31日夜、娘澄子(作家・久坂葉子)が鉄道自殺。あまりに大きな衝撃・悲劇である。

その後雑誌「金曜」は続いたのか。へちまクラブの日誌(註2)には四十九号以降記録がない。「金曜会」催しは月に何度も開いている。53年6月以降の主なものを挙げる。河原崎国太郎「名優女形の苦心談と実演」、棟方志功の版画展、同講演「美について」、他に「特価靴即売会」や九州水害募金、講演会では米ソ冷戦問題、中小企業経営、労務管理など多彩。翌54(昭和29)年には柳原白蓮講演、茶会、それに花屋勘兵衛指導「ヌード写真撮影会」開催。著名人の来訪も多く、貫一に月刊雑誌編集作業の暇はなかったと思われる。

雑誌「金曜」は利益を求めず5年継続した。敗戦後、明治生まれの教養人(時間と経済生活に余裕あり)が神戸だけではなく各地から参加した。戦前からの「西村旅館」ファン、貫一人脈である。同好の士が集まり、手弁当で、楽しんで作る。誰かの寄稿に反応して次号、次次号で異論あり、発展あり、理想的な同人誌形態を維持できた。戦後復興が進み、日常生活が落ち着き、職(社会)に復帰した人もあるし、物故者もいる。混沌状態だからできたことかもしれない。今読める号を紹介したが、欠号分は幻の雑誌である。

さて54年、貫一は上京して友人たちに会いたい、と思いつつ。日誌に「四月十四日 於東京、へちま倶楽部員と灘の酒と神戸牛肉のすぎ焼会を催す 盛会」(註2)とある。東京在住の会員有志が発起人(石橋湛山、長谷川如是閑、牧野富太郎ら6名)、世話人(町田辰次郎、宮川三郎)と

なり、3月末案内状発送。

〈拝啓／神戸の西村貫一君夫妻が、二十五年ぶりと称して上京します。友あり遠方から来れば楽しいものと古来相場が立って居りますが、この神戸の殊勝なる友人は、何と五貫匁の牛肉と灘の一升瓶を式拾本も携えて来て、旧知の人と一処にめしが食いたい、とへちま倶楽部の会員の外にも、会いたい人々々の名簿まで添えて参りました。(後略)註3

4月14日午後5時、会場は経済倶楽部、会費300円(ご飯、ビール、写真班他のサービスに当てる)。出席者100名に及ぶ。筆者が名を知る人は、木村毅、谷川徹三、村松梢風、森於菟、川路柳虹、石田博英、澁澤敬三、安倍能成ら。欠席者43名はやむを得ぬ事情をそれぞれ返事。藤山愛一郎、辰野隆、吉川英治、柳原白蓮、福原麟太郎、大佛次郎ら。

貫一の挨拶は、妻にしゅべり過ぎぬよう釘を刺されている、と言いつつ。〈歓迎会というのは非常に結構な言葉ですが何かしらん尻のこそばいような気がしますのや。／ほんとう云えば私共夫婦揃って皆さんのところを一々訪問する所なんです、それには東京は少し大きくなりすぎて自動車で走ってもなかなか廻り切れんので、それで一堂に集まってもらう事にして頂いたので、歓迎会と云われると御尻がそれでむづむづするのです。〉註3

私は東京が嫌い、と本音か照れ隠しか、出席者に感謝感激と礼を述べ、会の舞台裏を明かす。石橋が100人ですぎ焼きできる場所として自社ビル内の会場を提供した。案内状作成は宮川。当初貫一が白鶴酒造に交渉して秘蔵の酒10本を用意したところ、宮川が勝手に20本に増やした。井上市太郎(不明)が牛肉を寄贈。明治製糖が砂糖提供。神戸からの運搬は八田嘉明(戦中鉄道大臣、運輸大臣など歴任、当時は拓殖大学総長)が手配。高齢者の自動車送迎はニューエンパイヤ(フォード輸入販売)。カメラマンも無料奉仕。すべて「善根」の賜物。貫一は愛される人物である。

註1 「金曜」第45号 へちま文庫 1952年
註2 『へちま倶楽部十周年日誌 抜粋』へちま倶楽部 1956年
註3 高尾清編「無沙汰の果報」へちま倶楽部 1954年
写真 「金曜」第49号表紙
追記 本稿(115)「西村旅館(7)」、居候画家「半月庵」不明とした。『西村旅館年譜』所収の毎日新聞記事(1938.3.2)に「魚の画家稲垣勇二郎(正しくは勇次郎)氏を十年間旅館の一室に居候させて最後にフランスへ洋行させたり……」とある。彼の雅号が「半月庵」。種田山頭火(1882~1940年)が死の前年、愛知県南知多町の句友・橋本健三を訪ねた時、同地在住の稲垣も同席。「半月」は字名で、「半月庵」は寺の庵名でもある。名水で知られる。山頭火記念句碑のうち的一句「波音の松風となる水のうまさは」。(Web「知多半島の文学碑データベース」)
引用文は適宜新字新かなに直した。



みなとMIO MACH ケンチクさんぽ vol.25

公益社団法人 日本建築家協会 近畿支部

兵庫地域会 地域まちづくり委員会

波止場さんぽ 中突堤～メリケンパーク

中突堤西側、かつての国産埠頭を埋立てて建てられた中突堤中央ターミナル(1998)と国道2号線の間に昔の埠頭の雰囲気そのままに旧防波堤と国産倉庫等が陸地に取り囲まれて残っています。数年前までは“波止場町TEN×TEN”として文化施設的な利用もありましたが、現在はSOHOの事務所等でひっそりと使われているだけの状況になっています。



国産倉庫群

倉庫群の片隅にはハローワークの労働出張所があり「何故こんなところにハローワークが?」と思いながら旧防波堤に設置された銘板写真を見ると1960年代この場所に職業安定所があり、港湾関係の労働者で相当に賑わっていた様子が伺えました。ハローワークはそんな歴史の名残りで残ってきたのかも知れません。



ハローワーク神戸港労働出張所



1960年代職安前に集まる労働者



中突堤中央ビル(上写真) 2階飲食店街 (下写真)



海洋博物館と改修中のポートタワー

メリケンパークの東端部にフィッシュダンス(1987)があります。スペイン・ビルバオのゲッゲンハイム美術館の設計者として著名なフランク・O・ゲーリー氏の設計で、安藤忠雄氏の監修によります。

金網で表現された巨大な魚が跳ねるような様子が特徴的ですが、そこに隠れたメッセージがあることは完成から35年経つ現在まで知りませんでした。

巨大な魚の正体は“鯉”で、なぜ海辺で淡水魚の鯉?と思いましたが、この場所が鯉川筋の突当りに位置し、かつての鯉川の川尻に位置することに由来して、鯉が跳ねおどる姿がモチーフになっているそうです。(ちなみに鯉川筋の由来も、かつての鯉川という川を暗渠化して道路にしたことによります)

高さ22mのモニュメントは、全体を亜鉛メッキ製の金網で覆われていて、完成後もまもなくから海辺の潮風による塩害被害から赤錆の発生が問題となり、すぐに劣化が進み撤去されてしまうかも…と危惧していましたが、建物管理者の努力で今もメリケンパークの特徴的なモニュメントとして維持され続けています。

このフィッシュダンスは、ちょうど私が大学生の頃の完成で、当時は女の子を誘ってフィッシュダンスまで神戸デートするのが憧れでした。結局、憧れのままに終わってしまいましたが…。

新しい発見や期待感、そして懐かしさとともにノスタルジックな気分が交錯する波止場さんぽとなりました。



栄 宏之(さかえ ひろゆき)
建築設計工房・栄(Sakae)/代表
一級建築士/防災士/インテリアコーディネーター
日本建築家協会近畿支部兵庫地域会/副地域会長
兵庫県建築士会淡路支部/支部長